

(単位：千円)

決算書 (P274～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	直江津港振興事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
11,748	9,305				1,374	7,931
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,443				2,443	

【事業の目的】

直江津港ビジョンの目標に掲げた外貿定期コンテナ貨物取扱量5万TEU(2025年)の実現に向け、港湾サービスの一層の向上のための取組を進め、取扱貨物量の拡大を図ることにより、市内産業の活性化に結び付ける。また、上越沖を含む日本海にあるメタンハイドレートに関する市民啓発を図るとともに、本市における北前船に関する歴史・文化等の資源を活用し、地域の活性化と振興を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

港湾振興企画事業 9,240

○平成30年度目標

- ・外貿定期コンテナ貨物取扱量の維持・拡大
- ・外貿定期コンテナ航路の維持
- ・港湾振興専門員からの助言の下、港湾事業者と連携した取組の推進
- ・北前船日本遺産の登録を契機とした市民への周知・啓発と関係自治体等との関係構築

○実施内容、これまでの経過等

(1) 外貿定期コンテナ利用促進支援補助金(600)

<外貿定期コンテナ航路利用拡大のための補助金>

- ・輸出コンテナ貨物利用拡大

直江津港から新たに10TEU以上の輸出を開始した企業(新規事業者)、前年度実績と比べ取扱量が40TEU以上増加した企業(大口事業者)に対し補助金を交付

区分	利用企業数	増加量	補助額
新規事業者	1社	10TEU	200千円
大口事業者	1社	179TEU	400千円
合計	2社	189TEU	600千円

- ・輸入コンテナ貨物利用拡大

直江津港から新たに10TEU以上の輸入を開始した企業(新規事業者)、前年度実績と比べ取扱量が70TEU以上増加した企業(大口事業者)に対し補助金を交付…実績なし

決算書 (P274～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	直江津港振興事業		

(2) ポートセールス (598)

外貿コンテナ貨物取扱量の拡大に向けて、新潟県や港湾事業者等と連携し、市内企業を始め、長野県内を中心に市外の荷主企業を訪問したほか、同県内の商工団体等が主催する地元企業向けの説明会等の機会を捉えて直江津港のPRを行った。

- ・ポートセールス：133企業・団体（市内：50、県内：12、長野県：63、東京都ほか：8）
- ・業種別団体への説明：2回（長野市、上越市）参加者計 約200名

(3) 港湾振興専門員報償金 (740)

貿易貨物の物流に精通した専門的な見地から指導及び助言を受けながら、直江津港の利用増に向けた荷主企業への訪問を実施した。

(4) 北前船日本遺産関連事業 (7,274)

北前船日本遺産への認定を契機に、当市における北前船に関する歴史・文化等の周知・啓発を行ったほか、都市間交流の実現に向けた情報収集を行った。

①北前船日本遺産推進協議会事業への参加

北前船日本遺産認定自治体により組織する北前船日本遺産推進協議会の活動を通じて、北前船日本遺産を活用した交流拡大等を図った。

<北前船日本遺産推進協議会が実施した事業概要>

- ・北前船の公式WEBサイトの制作、運営
- ・北前船寄港地38自治体を紹介するガイドブックの作成
- ・北前船子ども交流拡大プロジェクトの実施（上越市立国府小学校が参加）
- ・広域観光周遊モデルコースの造成

②北前船寄港地フォーラム等への参加

開催場所…中国・大連市、福井県坂井市、新潟県長岡市、広島県尾道市

③市民等への普及啓発

- ・日本遺産認定を記念し、直江津学びの交流館等で企画展及びパネル展を実施
- ・市民等を対象に北前船に関する文化等を学ぶ座談会や講演会等を開催
- ・わらび座ミュージカル「北前ザンブリコ」の公演（公演時に、保存会や地元小学生による民謡「米大舟」の披露や当市と北前船に関するナレーションを実施）

○目標達成状況

- ・平成30年の外貿コンテナ貨物取扱量（実入りコンテナ、空コンテナを含む）は前年比11.1%増の33,097TEUと2年連続で増加し、過去最高の取扱量を記録した。また、荷物が入っている「実入り」においても、「輸入」において建築資材が好調だったことなどから、前年比5.2%の22,446TEUと増加した。
- ・昨年5月24日の北前船日本遺産の認定を受け、北前船パネル展、座談会、講演会やミュージカル等の開催等を通じて、幅広い年代に北前船の歴史・文化等をPRした。
- ・北前船寄港地フォーラムへの参加を契機として、中国・大連市における日本商品展覧会への出展が実現するなど、新たな交流拡大に向けた事業につながった。

上越沖メタンハイドレート商業化促進事業 65

○平成30年度目標

- ・商業化を見据え、資源開発に向けた研究や実証試験設備等に関する情報収集や関係者との関係構築を図る。
- ・イベント等を活用した広報・啓発活動を継続し、市民のメタンハイドレートへの認知・理解を深める。

決算書 (P274～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	直江津港振興事業		

○実施内容、これまでの経過等

(1) 研究開発の促進に向けた市民の機運醸成(24)

- ・市内の各種イベントでのメタンハイドレートに関する理解促進と啓発活動の実施
- ・小学生向けメタンハイドレート出張授業の実施(3校 84人)
- ・国立研究開発法人産業技術総合研究所から講師を招き、実物のメタンハイドレートを使用した燃焼実験等を実施(小学校5、6年生の児童:13名、保護者:17名)

(2) 他団体との関係構築(41)

- ・フォーラム等でのメタンハイドレート資源の調査、開発及び商業化に向けた研究等に関する情報収集
- ・海洋エネルギー資源開発促進日本海連合(12府県)や新潟県との情報共有

○目標達成状況

- ・研究機関等の開催するセミナーや日本海海洋資源フォーラムなど関係者が参集する会議等に出席し、情報収集や関係者との関係構築を図った。
- ・環境フェアなど市内各種イベントや小学生向け出張授業を通じて、市民のメタンハイドレートに関する理解促進に努めた。

【事業の成果】

- ・県や港湾事業者と連携するとともに、港湾振興専門員からの助言を受けながら、ポートセールスを実施し、直江津港の取扱量拡大につなげた。
- ・北前船日本遺産への認定を契機として、本市における北前船に関する歴史・文化等の周知・啓発を行うとともに、関係自治体等との関係構築に努めた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・外貿コンテナ貨物取扱量の維持、増加及び航路の維持を図るため、引き続き県や港湾事業者と連携しながら、市内企業を始め、直江津港の後背地である長野県等からの貨物獲得に向け、継続的かつ効果的なセールスに取り組む。
- ・北前船に関する歴史・文化等の認知度が低いことから、引き続き様々な機会を捉えて周知に努める必要がある。

【執行残額について】

その他：外貿定期コンテナ利用促進支援補助金が見込みを下回ったことによる残など

2,443

(単位：千円)

決算書 (P276～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	貿易振興事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
5,976	5,323				108 (雑収入)	5,215
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	653				653	

【事業の目的】

企業に対して貿易関連情報を提供するとともに、市内企業の海外事業展開促進に向けた支援策の検討を行い、今後の事業展開に伴う地域経済の活性化や直江津港を通じた物流の促進を目指す。

平成 30 年度 の 取 組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

国際ビジネス推進事業 4,442

○平成30年度目標

- ・市内企業の海外取引の実態や取引拡大に向けた課題、貿易関係団体等の活用状況等を把握し、分析することにより、必要な支援策等について、庁内関係課と連携を図りながら構築する。
- ・引き続き、独立行政法人日本貿易振興機構（以下「ジェトロ」という。）へ職員を派遣し、各種用務に従事する中で、民間事業者に対する支援の実情や最新の海外事業等を把握する。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 市内企業の状況把握 (6)

- ・海外に事業展開している市内企業や貿易関係団体から、海外での事業展開の現状や課題等のヒアリングを行った。

(2) 貿易関連団体等からの海外市場動向に関する情報収集 (4)

- ・県主催のビジネスセミナーに参加し、海外市場動向に関する情報収集を行った。
- ・昨年5月開催の「北前船寄港地フォーラム in 大連」参加にあわせて、ジェトロ大連事務所、大連日本商工会、中国国際貿易促進委員会等を訪問し、現地における経済事業やニーズ等を調査した。

(3) 第10回大連日本商品展覧会出展及び「日本館」関係者来越 (3,152)

- ・中国・大連市で開催された日本商品に特化した展示会にメイド・イン上越認証品製造企業1社とともにブースを設置し、メイド・イン上越の製品の紹介や観光PR、市場調査を行った。

開催場所	開催時期	来場者数	出展企業数	主催者
大連世界博覧 広場（中国・ 大連市）	9月21日(金) ～23日(日)	約6万8,500人	276社 ※新潟県か らは19社が 出展	・大連市人民政府 ・遼寧省商務庁 ・中国国際貿易促進委員会

決算書 (P276～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	貿易振興事業		

- ・中国・大連市において日本とのビジネス・文化交流を支援している「日本館」関係者が上越市を含む中国人向け観光ツアー造成の検討のため、昨年10月視察に来越した際に「日本館」の取組内容の説明と市内企業との意見交換を行った。

(3) ジェトロ職員派遣等 (1,280)

- ・ジェトロ派遣職員を通じて、ジェトロの活動状況や市内事業者に対する支援状況、最新の海外事情等について情報収集を行った。

○目標達成状況

- ・中国・大連市における調査結果に基づき、大連日本商品展覧会に出展したことで、「日本館」関係者とのつながりが構築できた。
- ・ジェトロ派遣職員を通じて、ジェトロが実施する支援の実情を把握することができたほか、市内事業者の海外展開に関する取組へのアドバイスを受けることができた。

貿易関連各種団体負担金等 881

○平成30年度目標

- ・貿易関連団体から最新の貿易関連情報を収集し、市内企業に対し情報提供を行うとともに、貿易関連団体を活用することにより、市内企業の海外事業展開を支援する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・最新の貿易関連情報の収集や情報提供等を行うための貿易関係機関への負担金の支出
- ・貿易関係機関による支援制度やセミナー情報等を市内企業へ提供
- ・日ロ沿岸市長会への負担金支出

【事業の成果】

- ・貿易関係機関が実施する支援制度やセミナー情報等を、市内企業の海外事業の検討材料として提供した。
- ・日本商品展覧会に出展した企業の製品について、品質や高いデザイン性が評価され、多くの引き合いがあったほか、成約につながった。また、市のブースには約300人が来訪し、ブースでの説明後に実施したアンケートでは、販路拡大に向けた可能性を感じられる調査結果が得られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・引き続き、海外取引の意向がある企業について個々の状況、ニーズを把握するとともに、ジェトロを始めとする関係機関等と連携し、市内企業への的確な情報提供や支援を通じて、企業の海外事業展開を後押しする。

【執行残額について】

その他：ジェトロ派遣職員の宿舍借上料の実績が当初見込みを下回ったこと等による残

653

(単位：千円)

決算書 (P276～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業政策課 (平成30年度所管は産業振興課)
事業名	住宅建築促進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,805,612	1,805,612				1,805,612 (諸収入)	
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	-					

【目的】

市内で住宅の建築を行おうとする人に対し、必要な資金の一部を貸し付けることにより、市民の住宅建築による居住環境の向上及び定住の促進に寄与するとともに、市内の住宅関連事業者の振興を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

住宅建築等促進資金預託金 1,788,135

○実施内容、これまでの経過等

平成23年9月まで実施した住宅建築等促進資金の貸付残高に応じた額を金融機関へ預託した。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
対象件数	729	679	633
預託金額	2,498,855	2,121,844	1,788,135

持家住宅低利建築資金預託金 17,477

○実施内容、これまでの経過等

平成16年度まで実施した低利建築資金の貸付残高に応じた額を金融機関へ預託した。

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
対象件数	230	105	65
預託金額	73,212	35,904	17,477

【事業の成果】

- ・金融機関への預託について、適切な資金管理が図られた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・住宅建築等促進資金については令和11年度まで、持家住宅低利建築資金については令和元年度まで預託を行う必要が生じている。

(単位：千円)

決算書 (P276～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業政策課 (平成30年度所管は産業振興課)
事業名	計量検査事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,133	2,048					2,048
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	85				85	

【目的】

消費者及び事業者が安心して商取引を行う環境を整え、円滑な経済活動を促すため、計量法に基づく検査等を実施する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・立入検査業務などの検査及び事務を円滑に行う。
立入検査目標件数：商品量目（生産者含む）10店、燃料油メーター10店、プロパンガスメーター5店

○実施内容、これまでの経過等

- ・計量業務推進員賃金等（1,972）
計量業務推進員を1名設置し、計量業務の確実な実施に取り組んだ。
- ・会議・研修負担金等（27）
適正な計量行政を確保するため、全国特定市計量行政協議会に参加し、関係機関と情報交換を行った。
- ・消耗品費（49）
計量法の改正等を受け、計量関係法令集の更新を行った。

○目標達成状況

- ・概ね目標件数どおりの立入検査を実施し、事業者の適正な計量の確保に努めた。
立入検査実績件数：商品量目（生産者含む）15件、燃料油メーター5件、プロパンガスメーター5件

【事業の成果】

- ・計画的な立入検査を実施することで、消費者及び事業者が安心して商取引を行い、円滑な経済活動ができる環境を整えた。
- ・市民や事業者に計量業務に関する正しい知識を伝えるため、ホームページ等において情報を発信した。

決算書 (P276～P277)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業政策課 (平成30年度所管は産業振興課)
事業名	計量検査事業		

参考：立入検査実施結果

		商品量目	燃料油メーター	プロパンガスメーター
立入件数		15件	5件	5件
内訳	適正	14件	5件	3件
	概ね適正	1件	0件	2件
	不適正	0件	0件	0件
	重大な不適正	0件	0件	0件

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・計量業務は専門性の高い業務であることから、長期的な視点で担当職員の育成に取り組む必要がある。

【執行残額について】

その他：事業実施に伴う執行残 85

(単位：千円)

決算書 (P276～P279)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	設備投資促進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
250,638	250,185				29,544 (諸収入)	220,641
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	453				453	

【目的】

企業の設備投資に対する財政支援を行うことにより、設備投資を誘発し、地域経済の活性化・雇用確保に寄与する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

積極的な企業訪問等を通じて、制度の周知を徹底することにより設備投資を促進する。
(奨励企業の指定25件を見込む)

○実施内容、これまでの経過等

奨励金・産業団地等取得補助金交付、融資

・工場等又は設備の新設・増設・更新に対して奨励措置を行うとともに、市内産業団地等の取得に対して補助金を交付した。

(1) 企業設置等奨励金 196,286

奨励金交付件数：59企業 96工場等

(2) 工場等設置資金の融資 29,544

融資件数：継続3件

(3) 産業団地等取得補助金 24,210

補助金交付件数：3企業

(4) 上越市企業振興審議会(全4回)の開催 145

(5) 生産性向上特別措置法に基づく先端設備等導入の促進 0

先端設備等導入計画の認定を受けるなど、一定の要件を満たす設備投資に係る固定資産税を3年間ゼロにするもの。

先端設備等導入計画の認定件数：44件

○目標達成状況

・奨励企業の指定件数は30件となり、見込みを上回った。

決算書 (P276～P279)	7款1項2目 商工振興費	所管課等	産業立地課
事業名	設備投資促進事業		

【事業の成果】

- ・奨励企業の設備投資額は346億4,068万円、新規雇用者数は72人となった。
- ・生産性向上特別措置法に基づき、市内企業の生産性向上に向けた設備投資に対する支援を適切に実施することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・企業の設備投資を促すため、引き続き、企業訪問や関係機関を通じた周知を行うとともに、企業に対する効果的なインセンティブとなるよう、適宜制度の見直しを行っていく必要がある。

【執行残額について】

その他：企業設置等奨励金及び企業振興審議会委員報酬、旅費の執行残など 453

(単位：千円)

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
84,346 【96,463】	80,322	1,200			4,399 (助成収入、譲収入)	74,723
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,024			32	3,992	

【目的】

観光情報の提供、観光資源のPR、関係団体の取組への支援などを通じ、観光振興を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

観光物産宣伝推進委託料 9,334

○平成30年度目標

- ・物産展の入込数1,425,000人、総売上額38,376千円

○実施内容、これまでの経過等

- ・観光物産宣伝推進委託料(9,334)

物産展名称		開催場所	開催時期	平成29年度入込数 (一部前年度含む)	平成30年度入込数	主催者
市外会場	上越市の観光と物産展	室蘭市 (隔年開催)	10月27日(土) ～28日(日)	4,000人 (28年度実績)	3,200人	上越市
		静岡市	11月24日(土) ～25日(日)	87,900人	87,300人	静岡市
	小計				91,900人	90,500人
市内会場	観桜会物産展	高田公園	4月6日(金) ～22日(日)	1,327,000人 ※観桜会入込数	884,000人 ※観桜会入込数	上越市
	姉妹都市と上越市の観光と物産展	観光物産センター	9月29日(土) ～30日(日)	30,000人	21,000人	上越市
	小計				1,357,000人	905,000人
入込数計				1,448,900人	995,500人	
総売上額				39,280,938円	24,936,896円	

※岩内町会場(隔年開催)：平成29年度入込数1,100人 売上額733,970円

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

○目標達成状況

- ・物産展入込数は、市外会場を始め当市を会場にした観桜会物産展及び姉妹都市と上越市の観光と物産展において平成29年度を下回っており、特に高田城百万人観桜会会場の入込数は、花の咲いている期間と会期が合わなかったことや、会期期間中の週末が風雨に見舞われるなど天候不良の日が多かったことから伸び悩み、目標を達成することはできなかった。
- ・物産展総売上額についても、観桜会物産展における入込数の減に伴い、売上が減少し、全体では平成29年度に比べて37%減となり、目標を達成することはできなかった。
- ・室蘭市会場では、地元新聞での物産展開催告知、静岡会場においては、上杉おもてなし武将隊等による上越市の観光パンフレット等の配布やステージ上での観光PRなどを通じて物産展への来訪、当市への誘客につなげた。

各種団体等への補助金、負担金 49,676

○平成30年度目標

- ・スポーツ大会や学術会議、コンクールなど16件のコンベンション開催件数を旨す。
(27年度…7件、28年度…16件、29年度…11件)

○実施内容、これまでの経過等

(1) 公益社団法人上越観光コンベンション協会補助金 (47,276)

- ・北陸新幹線の開業により移動の利便性が高まった首都圏や移動時間が短縮された関西圏、中京圏等において上越観光コンベンション協会が行う交流人口の拡大に向けた情報発信や観光営業の取組を支援した。
- ・また、コンベンションの開催誘致の取組を支援したほか、市外在住の当市出身者と市民との交流会等の開催や県外の旅行会社による市内に立ち寄る旅行ツアーの造成の取組を支援した。

(2) 上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助金 (1,534)

- ・百年料亭の魅力をいかした、市内への誘客・回遊に向けたイベント開催のほか、料亭文化及び高田芸妓文化に対する市民の認知度を高めるための取組を支援した。

(3) 高田の「食」をいかした経済効果拡大事業補助金 (866)

- ・仲町エリアの昼間の賑わい創出と周辺への周遊促進を目的とした「高田仲町ランチ+バル (5月)」、「高田仲町ランチ+バル『夏祭り in 高田仲町ウラ横丁』 (8月～9月)」の開催を支援した。

○目標達成状況

- ・コンベンション開催件数：12件
上越観光コンベンション協会と連携し、各種研究大会や大規模なスポーツ大会などのコンベンションの誘致に取り組んだものの、開催経費の助成件数は12件と目標達成には至らなかった。

観光振興に係る諸経費 5,221

- ・非常勤職員報酬等 (2,930)
- ・郵便料、運搬料 (744)
- ・庁用自動車関係経費 (986)
- ・その他消耗品等事務経費 (561)

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

<安塚区> 957

○平成30年度目標

- ・観光協会事業入込数：30,000人

○実施内容、これまでの経過等

安塚観光協会補助金

- ・安塚区の観光イベントや観光振興を担う安塚観光協会の活動に対して支援した。

○目標達成状況

- ・観光協会事業入込数：24,323人
- ・「灯の回廊（安塚スノーフェスティバル）」では、キューピットバレイを会場とした手筒花火やスカイランタンの打ち上げのほかツアーバスを運行するなど、集客に努めた。天候にも恵まれ、区内の雪茶屋では、過去最高の入込数となった。
- ・実施した事業全体では、平成29年度の入込数（前年比823人の増）を上回ったが、7月～10月に計画したイベントを悪天候や台風の影響により中止したことから、入込数は目標を達成することができなかった。

実施事業	入込数
菱ヶ岳山開き	400人
信越トレイル関係事業	1,323人
真夏の雪まつり	1,500人
スローフードやすづか屋台村	200人
キューピットバレイお正月イベント	1,400人
灯の回廊・安塚スノーフェスティバルなど	10,300人
ほか参加・協力イベント	9,200人

<牧区> 328

○平成30年度目標

- ・観光施設入込数：24,000人
(牧湯の里深山荘、ふるさと村、ふれあい体験交流施設の入込合計値)

○実施内容、これまでの経過等

(1) 牧ふるさと観光振興会補助金 (286)

- ・観桜会や謙信公祭、越後・謙信SAKEまつり、東京牧村会総会等、各種イベントで牧区の物産販売とPRを行った。
- ・三郷市交流促進事業、そば打ち・しめ縄づくり体験事業、信越トレイルボランティア整備等を行った。

(2) その他消耗品等事務経費 (42)

○目標達成状況

- ・観光施設入込数：20,852人
- ・牧湯の里深山荘は、9月までは昨年以上の入込数であったが、10月下旬にレジオネラ属菌が検出されたことで、以降の入込数が伸び悩んだ。また、ふるさと村及び牧ふれあい体験交流施設も入込数が減少し、目標を達成することができなかった。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

施設別入込数

施設名	平成28年度	平成29年度	平成30年度
牧湯の里深山荘	11,678人	11,328人	11,207人
ふるさと村	6,311人	6,007人	5,614人
牧ふれあい体験交流施設	4,718人	4,392人	4,031人
合計	22,707人	21,727人	20,852人

<柿崎区> 4,229

○平成30年度目標

- ・海水浴場入込数：15,000人
- ・観光協会事業入込数：41,000人

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 米山山頂避難小屋連絡協議会負担金 (300)
 - ・避難小屋及びトイレ等の山頂施設の維持管理に要する費用の負担金
 - ・構成メンバーは柏崎市、柏崎観光協会、柏崎山岳会、上越市、柿崎観光協会、柿崎山岳会、柿崎区下牧町内会代表
- (2) 柿崎観光協会補助金 (3,302)
- (3) 山梨県北杜市(姉妹都市)甲斐源氏まつり物産販売に係る経費 (61)
- (4) 米山登山ガイド研修業務委託 (100)
- (5) 米山登山ルートガイド印刷 (297)
- (6) その他車両経費等 (169)

○目標達成状況

- ・柿崎中央海水浴場入込数：4,750人
海水浴場の入込数は、台風や浜茶屋の開設がなかったことが影響し、目標に対して10,250人減となり、目標達成には至らなかった。
- ・観光協会事業入込数：38,730人
観光協会事業の入込数は、お引上げ商工まつりの初日が雨で出足が鈍ったこと、観光地引網が荒天のため中止になったことなどから合計で目標に対して2,270人減となり、目標達成には至らなかった。

		平成30年度		
		実施日	目標	実績
柿崎中央海水浴場		7月14日 ～8月19日	15,000人	4,750人
観光協会事業	坂田池観桜会	4月7日～22日	1,200人	1,010人
	米山山開き登山	5月27日	100人	120人
	お引き上げ商工まつり	6月20日～22日	32,600人	31,600人
	観光地引網	7月29日	100人	荒天中止
	納涼花火大会	8月5日	7,000人	6,000人
合計			56,000人	43,480人

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

<大潟区> 6,396

○平成30年度目標

- ・鵜の浜温泉の宿泊客数：57,000人
- ・鵜の浜海水浴場・人魚館等を含めた日帰り客数：186,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 大潟観光協会補助金 (3,796)

- ・観光協会の主な活動
 - 首都圏など旅行会社との商談会でのPR活動
 - 大潟商工会と交流がある群馬県みどり市笠懸町商工祭でのPR活動
 - 委託業務 (野外活動施設・海水浴場運営業務、キャンプ場経営、観光案内など)

(2) 鵜の浜温泉まつり実行委員会補助金 (1,600)

- ・実行委員会実施イベント
 - 色彩音楽花火 7月31日(火)、8月1日(水)、16日(木)、17日(金)、25日(土)
 - 鵜の浜温泉まつり 8月25日(土)

(3) 鵜の浜温泉60周年実行委員会補助金 (1,000)

- ・主な実施事業
 - 60周年記念の手ぬぐい・タオル・ボールペンなどの作成・配布
 - ノルディックウォーキング体験 (計7回)、早朝ヨガ体験 (計6回) の開催
 - うみがたり開業イベントへの参加
 - 鵜の浜海水浴場監視所にWi-Fiルーターを設置
 - レンタサイクルの開設、まち巡りマップの作成 など

○目標達成状況

- ・鵜の浜温泉の宿泊客数：53,771人
鵜の浜温泉の宿泊客数は、平成30年2月に廃業した旅館もあり、目標に対して3,229人少なく、目標を達成することができなかった。
- ・鵜の浜海水浴場・人魚館等を含めた日帰り客数：169,928人
人魚館等を含めた日帰り客数全体は平成29年度実績に比べて2,119人増加したが、海水浴期間中の悪天候の影響により目標に対しては16,072人下回った。

		平成30年度			
		目標		実績	
鵜の浜温泉の宿泊客数		57,000人		53,771人	
日 帰 り 客 数	鵜の浜温泉の日帰り客数	15,000人	186,000人	15,013人	169,928人
	鵜の浜海水浴場	65,820人		55,380人	
	鵜の浜人魚館	94,680人		91,535人	
	鵜の浜温泉まつり	10,500人		8,000人	
合計		243,000人		223,699人	

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

<頸城区> 1,482

○平成30年度目標

- ・頸城区観光協会に補助を行い、イベント実施及び誘客活動による頸城区の観光資源の情報発信を行うとともに、観光の振興を図る。

○実施内容、これまでの経過等

頸城区観光協会補助金

- ・頸城区観光協会だよりの発行、イベント情報の発信、イベントの実施、先進地視察、関係団体等との事業協力などを行った。

○目標達成状況

- ・頸城区内のイベントの情報発信や活動支援に努めながら、関係団体等との協力関係を深めることができた。

<吉川区> 909

○平成30年度目標

- ・観光協会事業入込数：3,480人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 吉川観光協会補助金 (424)

(2) 東京都荒川区(姉妹都市)における物産販売等に係る旅費・トラック及びバス借上げ (485)

- ・4月29日(日・祝)に東京都荒川区で開催された「第32回川の手荒川まつり」のふるさと市に参加し、山菜、地酒、米などを販売した。会場には、荒川区と交流している27自治体の出店があった。

○目標達成状況

- ・観光協会事業入込数：2,220人
- ・平成29年実績に比べて291人増であったが、郷土料理を食する会の実施回数が当初計画よりも減少したことなどにより、目標に対して1,260人減となり、目標を達成できなかった。

	平成30年度		
	実施日	目標	実績
尾神しだれ桜まつり	4月7日～15日	400人	400人
吉川テラス (出店)	7月21日	200人	200人
よしかわ やったれ祭り (出店)	8月4日	600人	600人
尾神岳サマーフェスティバル ※1	8月11日	一人	180人
吉川盆おどり ※2	8月12日	280人	開催休止
観光協会長杯争奪 パラグライダー大会	9月23日	200人	100人
郷土料理を食する会 ※3	11月23日、24日	1,600人	600人
新酒を楽しむ会	3月2日	200人	140人
合計		3,480人	2,220人

※1 尾神岳サマーフェスティバル…当初計画にはなかったもの

※2 吉川盆おどり…尾神岳サマーフェスティバルの開催により平成30年度は開催休止

※3 郷土料理を食する会…当初計画では年5回、実績は2回

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

<中郷区> 389

○平成30年度目標

- ・観光協会事業入込数：3,600人

○実施内容、これまでの経過等

中郷観光協会補助金

- ・縄文さくらまつりやなかごう夏まつり、二本木駅環境整備事業を実施した。

○目標達成状況

- ・観光協会事業入込数：4,100人
- ・縄文さくらまつりの開催、なかごう夏まつりでのメモリアル花火の打ち上げやさとまるのPRを行った。
- ・二本木駅環境整備事業においては、毎週土・日曜日にえちごトキめき鉄道「雪月花」のおもてなし、毎月第2・第4日曜日に喫茶「さとまる一む」を営業したほか、毎月第4日曜日にはスイッチバック市を開催し二本木駅のPRや物産販売を行った。また、二本木駅の改修工事が行われ、リニューアル式典が開催されたこともあり、入込数について目標を上回ることができた。
- ・商工会主催のスイッチバック祭りに観光協会として出店したことで、物産販売を通じて区内外の多くのお客さんに中郷区のPRができた。

イベント名称	開催日	目標	入込数
縄文さくらまつり	4月22日(日)	200人	200人
なかごう夏まつり2018	8月5日(日)	2,000人	2,000人
二本木駅環境整備事業	毎月第2、第4日曜日 喫茶「さとまる一む」営業 10月13日(土) 二本木駅リニューアル式典	1,400人	1,900人
合計		3,600人	4,100人

<板倉区> 400

○平成30年度目標

- ・ゑしんの里観光公社事業入込数：9,500人

○実施内容、これまでの経過等

ゑしんの里観光公社補助金

- ・地域の自然や歴史に関する特別展や恵信尼に関する講演会など、ゑしんの里記念館等の利用促進につながるイベントを実施したほか、板倉区への誘客を促進するため、特産品であるソバに関するイベントなど、区内の観光関係団体と協力した観光PR活動を行った。

○目標達成状況

- ・ゑしんの里観光公社事業入込数：11,344人
- ・光ヶ原高原など地域をテーマとした絵画や写真の展示会を複数回開催したほか、恵信尼に関する文化講演会や特産品のソバをPRするイベントなどを行ったことにより、目標を達成することができた。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

<名立区> 1,001

○平成30年度目標

- ・観光協会事業入込数：13,400人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 名立観光協会補助金 (821)

- ・「鮮魚の青空セリ市」、「名立大鍋まつり」、「鮭のつかみどり大会」の名立三大イベントについて、チラシを始め、ホームページやSNSにより発信しPRを行ったが、悪天候のため出漁ができなかったことや過去に例をみない鮭の不漁により、「鮮魚の青空セリ市」、「鮭のつかみどり大会」が中止となった。「名立大鍋まつり」においては大風のため飲食用テントを撤収するなどの影響はあったものの、イベント実施等を通じて名立区のPRを行うことができた。

(2) 名立区イベント交流事業補助金 (180)

- ・友好交流を続けている長野県東御市で開催された「火のアートフェスティバル」に参加し、名立区特産品の販売や名立区のPRを行った。

○目標達成状況

- ・観光協会事業入込数：6,070人
- ・悪天候や鮭の不漁により、「鮮魚の青空セリ市」、「鮭のつかみどり大会」が中止になったほか、「名立大鍋まつり」においても大風により飲食用テントを撤収した影響もあり、入込数は大幅に減少し、目標を達成することができなかった。

	平成30年度		
	実施日	目標	実績
鮮魚の青空セリ市	5月4日(中止)	2,200人	—
名立大鍋まつり	10月27日～28日	10,000人	6,070人
鮭のつかみどり大会	11月25日(中止)	1,200人	—
合計		13,400人	6,070人

【事業の成果】

- ・各姉妹都市との物産展を通じて、当市の特産品等をPRするとともに、市民間の交流を深めることができた。
- ・上越観光コンベンション協会と連携し、当市の情報発信、観光ルートの開発と商品化、旅行会社等への売り込みを行うことで、誘客促進に寄与することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・姉妹都市等と当市で行う物産展での交流事業については、持続的かつ効果的な取組み方法の検討も含め、今後の事業の在り方を関係者と協議しながら進める必要がある。
- ・豊かな食や歴史・文化など、アフターコンベンションにつながる情報もきめ細かく提供し、スポーツ大会等を含む更なるコンベンション誘致を進めていく。
- ・各区の観光協会等が実施する事業については、情報発信などの事業連携を進める体制づくりに取り組む必要がある。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

【執行残額について】

入札差金：吉川区の荒川区との交流事業におけるバスの借上げ委託料	32
その他：上越観光コンベンション協会補助金において、職員人件費助成の実績が見込みを下回ったことによる執行残	2,454
上越市百年料亭のあるまち誘客・回遊強化事業補助金において、補助対象事業見直しによる執行残	466
高田の「食」をいかした経済効果拡大事業補助金において、補助対象事業見直しによる執行残	134
名立観光協会補助金において、事業中止による補助金の減	244
燃料費、備品修繕料、運搬料等が当初見込みを下回ったことによる執行残	694

(単位：千円)

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
12,117 【96,463】	12,117					12,117
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	0				0	

【目的】

観光情報の提供、観光資源のPR、関係団体の取組への支援などを通じ、観光振興を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

観光案内所運営事業 12,117

○平成30年度目標

・利用者数：109,000人（うち、高田駅8,000人、直江津駅11,000人、上越妙高駅90,000人）

○実施内容、これまでの経過等

(1) 直江津・高田駅前観光案内所運営業務委託料 (5,621)

・高田駅前観光案内所は、観桜会期間中、開設時間を午後7時まで延長し、市内の観光名所や宿泊施設などの情報提供を行い、利用者の利便性向上を図った。

(2) 上越妙高駅観光案内所管理運営業務委託料 (6,496)

・上越妙高駅のSAKURAプラザでは、年間を通じて観光案内所を開設し、上越市をはじめ周辺地域の魅力をPRし、観光客の利便性向上を図った。

・観光案内所利用者数

(単位：人)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
高田	7,424	7,185	6,265
直江津	9,399	10,975	11,029
上越妙高	89,755	84,414	94,029
計	106,578	102,574	111,323

○目標達成状況

・高田駅前観光案内所の利用者数は目標を下回ったものの、直江津駅前観光案内所、上越妙高駅観光案内所では目標を上回り、3案内所の合計利用者数の目標は達成することができた。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光振興対策事業		

【事業の成果】

- ・上越観光コンベンション協会と連携しながら、年間を通じて3か所の観光案内所を開設し、観光客からの観光名所やアクセス等の様々な問い合わせに対して丁寧に対応することで、上越市をはじめ周辺地域の魅力を発信することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越妙高駅観光案内所は、上越地域の玄関口にあたるため、周辺地域の情報も含め、様々なニーズに対応したサービスの提供や目的地までの案内を確実に行うとともに、直江津・高田駅前観光案内所では、地元商店や団体等と連携しながら、地域に根差したきめ細かな案内を実施し、利用者の満足度を高めていく。

【執行残額について】

その他：事業実施に伴う執行残 0

(単位：千円)

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	イベント推進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
113,290	113,180				18,932 (手数料、財源収入)	94,248
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	110				110	

【目的】

大きな集客力があり、市内での宿泊など経済効果が高い観桜会を始め、謙信公祭、蓮まつりなど本市を代表するイベントの内容充実により市民の地域への誇りと愛着、一体感を育み、交流人口の拡大につなげ、市内経済の活性化を目指す。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

観桜会事業 60,239

○平成30年度目標

- ・入込数：1,300,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・観桜会事業補助金(60,162)

事業主体：公益社団法人上越観光コンベンション協会、上越市、上越商工会議所

開催日：平成30年4月2日(月)～22日(日) 21日間(前倒し4日間含む)

事業内容：ぼんぼり設置、会場内・桜・西堀橋のライトアップ、物産展、さくらステージイベント、花火、シャトルバス運行など

入込数の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入込数	1,301,000人	1,327,000人	884,000人

- ・非常勤一般職報酬等(77)

○目標達成状況

- ・観桜会の開催を告げる市中パレードは悪天候のため取りやめとなったが、埼玉県のマーチングバンド「ジェネシス」の公演やパレードに多くの市民や観光客が集まったほか、北陸新幹線沿線都市へのメディアキャラバンやJR主要駅へのポスター掲示、5か国語での情報提供など、集客増につなげるための多様な取組を行った。
- ・桜が平成29年より7日早い3月30日に開花し、4月4日に満開を迎えるなど、花の咲いている期間と会期が合わなかったことや、週末が風雨に見舞われるなど会期中は天候不良の日が多かったことから入込数が伸び悩み、目標を達成することができなかった。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	イベント推進費		

上越まつり事業 42,655

○平成30年度目標

	入込数
高田地区	144,000人
直江津地区	200,000人
春日地区	150,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・上越まつり委員会交付金(42,093)

事業主体：上越まつり委員会（公益社団法人上越観光コンベンション協会、高田祇園まつり奉賛会、直江津祇園祭協賛会、謙信公祭協賛会）

<高田、直江津地区>

開催日：平成30年7月23日（月）～29日（日）

事業内容：民踊流し、みこしの川下り、花火大会、御饌米奉納、小・中学校マーチングパレードなど

<春日地区（謙信公祭）>

開催日：平成30年8月24日（金）～26日（日）

事業内容：出陣行列、川中島合戦の再現、民踊流し、奉納武道大会、献納米合戦、狼煙上げなど

入込数の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
高田地区	144,600人	89,500人	143,600人
直江津地区	183,000人	200,000人	202,000人
春日地区	148,600人	149,600人	151,700人

- ・非常勤一般職報酬等(152)
- ・物品保管用倉庫借上料(410)

○目標達成状況

- ・高田地区、直江津地区とも天候に恵まれ、平成29年は雨天で中止となった高田祇園祭の大民踊流しとみこしの川下りが実施されたこともあり、入込数は両地区とも平成29年に比べ増加したものの、高田地区では目標を達成することができなかった。
- ・直江津祇園祭の大民踊流しは、多くの市民や事業所の皆さんからの参加があり、平成29年と比べ534人増の2,369人と大きく上回った。
- ・春日地区では、天候にも恵まれ、目標を達成することができた。また、謙信公役を市民から公募により選出することとし、市民が謙信公祭に関心を持ったり、その意義に思いを向けたりすることの一つのきっかけとすることができた。
- ・地元小・中学生を始め、高校生や大学生が積極的に祭りに関わるなど、平成29年に引き続き、幅広い世代の若者たちが活躍した。

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	イベント推進費		

上越蓮まつり事業 3,531

○平成30年度目標

- ・入込数：210,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・上越はすまつり実行委員会交付金
事業主体：上越蓮まつり実行委員会
開催日：平成30年7月21日(土)～8月15日(水) 26日間
会場：高田公園ほか
入込数等の推移

年 度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入 込 数	244,600人	190,000人	195,000人
開催期間	7/22～8/16	7/21～8/15	7/21～8/15
日 数	26日間	26日間	26日間

- ・高田公園の蓮の花を主役に、茶会や観光ボランティアガイドによる蓮のガイド、俳句大会、短歌の会、はすウォッチング、蓮を見ながら走ろう会、物産展、はす麺販売、上越オクトーバーフェストなど多彩な催しを行った。
- ・高田本町では「百年商店街絵看板めぐりと食べ歩き」の開催、歴史博物館、オーレンプラザではテナント事業者による「早朝カフェ」を開設したほか、高田公園の蓮の成り立ちに深く関わった保阪邸の一般公開など、新たな取組を実施した。
- ・集客に向けたPR活動として、高速道路(NEXCO東日本管内)主要SA内でのデジタルサイネージやポスター掲出、パンフレット設置のほか、電車内(えちごトキめき鉄道・北越急行・JR東日本)での中吊りポスター掲出、駅構内でのパンフレットやのぼり旗の設置を行うなど、誘客促進に努めた。

○目標達成状況

- ・6月下旬に蓮の花が咲き始め、北堀と南堀は7月上旬、西堀は会期スタートと同時に見ごたえのある蓮となったが、会期中は猛暑日、真夏日が続き、日中の暑さの影響などから、入込数は平成29年に比べ微増に止まり、目標を達成することができなかった。

レルヒ祭事業 3,605

○平成30年度目標

- ・入込数：24,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・レルヒ祭実行委員会交付金
事業主体：レルヒ祭実行委員会
開催日：レルヒ祭…平成31年2月2日(土)、3日(日)
会場：金谷山スキー場、高田本町商店街ほか
開催内容
(1) 金谷山会場を中心とした事業
① 1日目…平成31年2月2日(土)

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	イベント推進費		

レルヒキャンドルロード、たいまつ滑降、ミュージックスターメイン、LEDスカイランタンリリースなど

② 2日目…平成31年2月3日(日)

一本杖スキー披露・講習会、陸上自衛隊高田駐屯地音楽隊の演奏、高田西小学校児童による金谷山太鼓の演奏、レルヒ検定〇×クイズ、スキーレッスン会、雪中宝探しなど

(2) 高田本町商店街会場を中心とした事業

本町通りにおいて、食・雪国体験・文化イベントを開催

開催日：平成31年2月2日(土)

- ・雪灯籠設置、くびき野食の祭典 in 本町、町家公開とまちなみ散策ツアー
- ・本町ガチ盛りまつり及び雪室グルメフェア(2/2～28)

入込数の推移(前夜祭・本祭)

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
来場者数	25,500人	24,000人	26,000人

○目標達成状況

- ・開催期間中は天候に恵まれたことやレルヒ祭直前にまとまった降雪があったことから、家族連れを中心に多数の来場があり、目標を達成することができた。
- ・本町会場では、駅前通りのアーケードに大町小学校6年生が作った歓迎フラッグを掲出する取組を実施し、賑わいを演出できた。

露店市場管理事業 3,150

○実施内容、これまでの経過等

まつりやイベントの賑わいを演出し、会場に活気を与えるため、まつり等で移動露店を開設し、移動露店の出店受付、管理を行った。

- ・移動露店市場管理委託料(3,111)
- ・印刷製本費(32)
- ・移動露店市場道路使用許可手数料(7)

会場及び移動露店開設日

会場	移動露店開設日
高田城百万人観桜会	平成30年4月2日～22日
坂田池観桜会(柿崎区)	平成30年4月8日、15日
八坂神社春祭礼	平成30年4月27日～28日
お引き上げ商工まつり(柿崎区)	平成30年6月20日～22日
上越まつり・高田本町	平成30年7月24日～25日
上越まつり・三八通り	平成30年7月26日
上越まつり・八坂神社	平成30年7月28日～29日
納涼花火大会(柿崎区)	平成30年8月5日
菅原神社例大祭(清里区)	平成30年8月18日
謙信公祭	平成30年8月26日

決算書 (P278～P279)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	イベント推進費		

移動露店（出店数）の推移

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
合併前上越市	482店	459店	439店
柿崎区	135店	124店	104店
清里区	17店	18店	16店

【事業の成果】

- ・目標入込数に達しないイベントはあったものの、催しを通じて市民の地域への愛着や誇りを高め、当市を訪れる観光客の皆さんにも、その価値を共有、共感していただけるよう、実行組織と連携を図りながら取り組むことができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・当市の更なる知名度向上と交流人口の拡大を促進するため、各イベントの実行委員会や関係機関と効果的な情報発信や受入態勢などについて協議、検討を重ねながら、イベント内容の充実を図っていく。

【執行残額について】

その他：観桜会、謙信公祭における非常勤一般職報酬等の執行残	90
その他事業実施に伴う執行残	20

(単位：千円)

決算書 (P278～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	直江津屋台会館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,983	3,978				498 (使用料、財源収入)	3,480
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	5					5

【目的】

直江津祇園祭の屋台を保管するとともに、企業の展示会など貸館施設としての利用促進や観光情報の発信を行い、伝統文化の保存と地域の活性化に資する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- 市民が集い交流する場や企業の展示会などの貸館施設としての利用を促進するとともに、観光情報を発信することにより、市内観光地への誘客を図る。

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地	西本町4丁目18番12号
設置	平成6年度
構造	鉄骨造平屋建て
施設内容	イベントホール、広場、保存・展示庫
面積	延床1,489.26㎡
管理	直営
利用形態	直江津祇園祭屋台の保管、貸館施設

・施設の経緯

平成6年度	開館
平成14年度	利用者の減少により休館
平成17・18年度	屋台会館前広場で、伝統芸能の披露を実施
平成19年度	有効活用方法検討のため、関係町内会連絡協議会を開催
平成20・21年度	「越後上越 天地人博」の開催
平成22年度	貸館とする準備のため閉館(6月末まで) 貸館及び屋台保管施設として開館(7月から)
平成25年度	会議室をJ-ホールディングス(株)へ事務所貸付

決算書 (P278～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	直江津屋台会館管理運営費		

○施設の管理実績

- ・利用者数等

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			計 画	実 績
利用者数	2,019人	3,574人	-	23,798人

- ・施設管理における市の収支状況

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料	270	224	443	
	財産貸付収入	-	42	55	
	合計	313	312	266	498
②支出	消耗品費	-	104	76	
	光熱水費	1,301	1,502	1,386	1,717
	修繕料	198	2,755	292	290
	通信運搬費	58	58	58	58
	委託料	1,916	1,803	1,771	1,771
	使用料及び賃借料	43	54	43	66
	工事請負費	-	-	-	-
	合計	3,516	6,172	3,654	3,978
③公費投入額 (②-①)	3,203	5,860	3,388	3,480	
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)	1,586	1,640	-	146	

○目標達成状況

- ・市民や企業のイベント、展示会などのほか、うみがたりの開館に伴うイベント、物産販売や見学者の休憩場所としての貸館利用があり、利用者数が増加した。また、施設内に観光ポスターや観光パンフレットを設置し、来訪者に対する観光情報を発信する場として活用した。

【事業の成果】

- ・市民や企業のイベント、展示会などの貸館施設として、延べ23,798人の利用があった。
- ・来訪者へ観光情報を発信するなど一定の成果があった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・「地域の貴重な芸能文化の保存」を施設の設置目的としており、引き続き施設の適正な維持管理に努めていく。
- ・隣接する水族博物館「うみがたり」を核とした賑わいの創出や直江津のまちなかへの回遊を促すための貸館利用を促進していく。

【執行残額について】

そ の 他：事業実施に伴う執行残 5

(単位：千円)

決算書 (P280～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	雪国文化村リゾート推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
148,329	147,289			90,800	261 (諸収入)	56,228
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,040			40	1,000	

【目的】

計画的かつ適切な施設整備を行い、安全安心に利用できる通年型リゾート施設としての機能を維持する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・雪だるま高原施設を適切に維持管理し、受入環境の向上を図るとともに、施設の瑕疵に起因する重大事故の発生をゼロとする。

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地 安塚区須川地内
 設置 平成2年度
 施設内容 スキー場
 ゲレンデ面積 48ha
 索道施設 ゴンドラ1基(6人乗り、全長2,900m)
 リフト4基(2人乗り2基、4人乗り2基、全長3,800m)
 宿泊施設 コテージ 50室(定員300人)
 久比岐野 和室7室、洋室8室(定員60人)
 温浴施設 ゆきだるま温泉「雪の湯」
 体験施設 ふれあい昆虫館 鉄筋コンクリート造2階建て
 (1階：雪室、2階：ふれあい昆虫館)
 棚田動植物公園 面積2ha
 菱ヶ岳グリーンパーク 面積24ha

管理 指定管理
 利用形態 日帰り及び宿泊施設

決算書 (P280～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	雪国文化村リゾート推進事業		

・平成30年度の実施状況

項目	金額	内容
消耗品費	13,110	クワッドリフト搬器主要部品・索輪部品(7,490)、第3ペアリフト握索機更新部材(2,484)、ゴンドラ・クワッドリフト握索機部品(2,376)、リフト搬器部品(760)
修繕料	24,832	圧雪車点検修繕(10,795)、雪の湯濾過機等入替(993)、久比岐野内湯天井・換気修繕(820)、久比岐野エアコン・トイレ交換・移設(2,688)、スノーモービル点検修繕(574)、消防設備修繕(894)等
通信運搬費	415	Wi-Fi回線使用料(415)
委託料	324	施設設備定期点検(324)
使用料及び賃借料	6,543	除雪重機賃貸借(1,985)、AED賃貸借(238)、ゲレンデ整備車賃貸借(4,320)
工事請負費	61,387	第1クワッドリフト減速機更新(52,812)、ゴンドラ脱索防止輪整備(3,737)、第1クワッドリフト索受装置整備(3,110)、第3ペアリフト索受装置整備(1,728)
備品購入費	40,567	源泉予備ポンプ(2,214)、ベッドマットレス(553)、ゲレンデ整備車(37,800)
賠償金	111	車両物損(111)
合計	147,289	

○目標達成状況

- ・雪だるま高原施設を適切に維持管理し、受入環境の向上に努めた結果、施設の瑕疵に起因する重大事故の発生が無く、目標を達成できた。

【事業の成果】

- ・定期的な施設点検と計画的な修繕を実施し、施設が安全に運営できるよう維持管理を適切に行った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・雪だるま高原施設は、経年劣化による不具合が増加していることから、必要な修繕を適時適切に実施し、索道事故をゼロとする。

【執行残額について】

入札差金：備品購入費	40
その他：事業実施に伴う執行残	1,000

(単位：千円)

決算書 (P280～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,964	3,530			900		2,630
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	434				434	

【目的】

休止施設を適切に維持管理するとともに、霧ヶ岳登山や地域イベント等に、屋外トイレ、駐車場を有効利用する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地	浦川原区小谷島 1217 番地 1		
設置	本館	平成4年度	
	新館	平成5年度	
構造	本館	木造一部鉄筋コンクリート造	
	新館	木造2階建て	
施設内容	本館、新館	平成29年度から休止	
	その他附属施設	遊歩道、トイレ棟	
面積	延床 1,612.5 m ² (本館 1,260.0 m ² 、新館 352.5 m ²)		
管理	直営		
開設期間	遊歩道、トイレ棟	4月下旬～11月中旬	
利用形態	公園施設		

決算書 (P 280～P 281)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	5,952	-	-	-
	その他	3,906	81	-	-
	合計	9,858	81	-	-
②支出	施設維持管理費	40,756	8,890	3,964	3,530
	うち委託料	23,904	2,918	1,465	1,344
	その他	-	-	-	-
	合計	40,756	8,890	3,964	3,530
③公費投入額 (②-①)		30,898	8,809	3,964	3,530
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		1,795	-	-	-

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・施設の適切な維持管理を行っていく。

【執行残額について】

そ の 他 : 事業実施に伴う執行残 434

(単位：千円)

決算書 (P280～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	大島庄屋の家管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
26,187	25,617			2,800	17,142 (使用料、財産収入、 譲収入)	5,675
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	570				570	

【目的】

豊かな自然と日本の原風景、そこに生きる人々の暮らしや文化をいかした「体験型観光」の受入れを推進することにより、都市部の住民と地域住民との交流を促進し、民泊等の受入れによる地域経済の活性化を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・利用者数：4,500人（うち宿泊者数1,500人、日帰り者数3,000人）

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地	大島区田麦1096番地2
設置	平成3年度(宿泊棟) 平成5年度(体験棟)
構造	宿泊棟…鉄筋コンクリート造2階建て 体験棟…木造一部2階建て
施設内容	宿泊棟…客室7室、食堂、浴室2室 体験棟…広間、調理体験室、座敷、奥座敷
面積	延床967.07㎡(宿泊棟711.56㎡、体験棟255.51㎡)
管理	直営
利用形態	日帰り及び宿泊施設

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目標	実績
利用者数	4,445人	4,549人	4,500人	4,522人
うち宿泊者	1,637人	1,260人	1,500人	1,402人
うち日帰り者	2,808人	3,289人	3,000人	3,120人

決算書 (P280～P281)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	大島庄屋の家管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	4,709	3,947	4,417	3,884
	その他	14,384	12,870	13,399	13,258
	合計	19,093	16,817	17,816	17,142
②支出	施設維持管理費	24,412	25,546	25,466	25,617
	うち委託料	11,679	11,768	12,236	12,338
	その他	-	-	-	-
	合計	24,412	25,546	25,466	25,617
③公費投入額(②-①)		5,319	8,729	7,650	8,475
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)		1,197	1,919	1,700	1,874

○目標達成状況

- ・利用者数は4,522人(宿泊1,402人、日帰り3,120人)であり、日帰りの利用者数は目標を達成することができたが、宿泊利用者数で目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・施設を訪れた利用団体数は、滞在体験型観光が13団体(前年度11団体)、合宿利用が4団体(前年度4団体)で、ホームステイや農業・食・工芸体験など都市住民と地域住民との交流拠点施設として活用された。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・過去5年間、利用者数は4,500人前後でほぼ横ばいの状態が続いており、宿泊は滞在体験型観光や合宿での団体利用を中心に、日帰りは地域における法要や同窓会などの宴会利用が中心となっていることから、新規利用団体の獲得に向け、体験プランの見直し等による体験型観光の利用者増加を図るとともに、公費投入額の縮減に向け、管理体制の見直し等により効率的な運営に努める。
- ・宿泊棟・体験棟はともに建設から25年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいることから、利用者の安全や利便性に配慮し、適切な維持管理に努める。

【執行残額について】

そ の 他：事業実施に伴う執行残 570

(単位：千円)

決算書 (P280～P283)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	牧ふるさと村自然と憩の森管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
3,164	3,144			1,200	460 (諸収入)	1,484
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	20				20	

【目的】

豊かな自然と田舎の生活文化に触れる憩いの場を提供することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・利用者数：6,500人

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

- 所在地 牧区池舟2番地
- 設置 昭和53年度
- 構造 ふるさとの家 木造2階建て
ふるさとアピール館 木造2階建て(鉄筋コンクリート造地下1階)
- 施設内容 ふるさとの家 厨房、食堂、客間
ふるさとアピール館 平成27年度から休止
- 面積 延床631.81㎡(ふるさとの家214.5㎡、ふるさとアピール館417.31㎡)
- 管理 直営
- 利用形態 体験研修施設

※平成27年度から「ふるさとアピール館」を休止しているが、地元団体から、イベントや地域の交流事業などでの施設使用希望があり、平成30年度から施設の使用を許可している。

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目標	実績
利用者数	6,311人	6,007人	6,500人	5,614人

決算書 (P 280～P 283)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	牧ふるさと村自然と憩の森管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	-	-	-	-
	その他	636	636	516	460
	合計	636	636	516	460
②支出	施設維持管理費	2,540	2,679	3,164	3,144
	うち委託料	1,236	1,298	1,636	1,636
	その他	551	214	-	-
	合計	3,091	2,893	3,164	3,144
③公費投入額 (②-①)		2,455	2,257	2,648	2,684
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		389	376	407	478

○目標達成状況

- ・利用者数は目標に対して 886 人少ない 5,614 人となり、目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・ふるさとの家で営業している蕎麦屋は、年々利用者数が減少しているものの、固定客、新規客共に好評をいただいている。
- ・「茅葺屋根」の古民家である「ふるさとの家」が、牧区の観光のシンボルとして「灯の回廊」の会場となるなど、区内外から利用があり、牧区の活性化・PRにつながっている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・休止中の「ふるさとアピール館」は、地元団体へ施設の使用を許可しているところであり、引き続き安全に使用できるよう適切に維持管理する。

【執行残額について】

そ の 他：事業実施に伴う執行残 20

(単位：千円)

決算書 (P282～P283)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	牧ふれあい体験交流施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,705	4,610			2,400	90 (使用料、謝収入)	2,120
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	95				95	

【目的】

地域の特性及び資源を活用した体験交流の場を提供し、都市部と農村部との交流を促進する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・利用者数：5,000人

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地	牧区原991番地
設置	平成11年度
構造	木造2階建て
施設内容	研修室1室、ミーティングルーム1室、体験調理室・実習室1室、 ホール1室、ふれあい広場
面積	延床568.34㎡
管理	直営
利用形態	研修集会施設

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目標	実績
利用者数	4,718人	4,392人	5,000人	4,031人

決算書 (P 282～P 283)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	牧ふれあい体験交流施設管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	7	-	34	1
	その他	116	136	12	89
	合計	123	136	46	90
②支出	施設維持管理費	4,367	4,369	4,705	4,610
	うち委託料	2,915	3,029	3,008	3,008
	その他	-	-	-	-
	合計	4,367	4,369	4,705	4,610
③公費投入額 (②-①)		4,244	4,233	4,659	4,520
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		900	964	931	1,121

○目標達成状況

- ・利用者数は目標に対して 969 人少ない 4,031 人となり、目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・利用者数は減となったが、郷土料理体験会などのイベントや交流会を開催したほか、越後田舎体験事業での利用促進を図るなど、地域の交流施設としての役割を担った。
- ・リピーターの確保や新たな参加者を掘り起こすため、山菜取り体験や柿の葉寿し作り体験、刈上げ祝い体験、もちつき体験、みそ作り体験の新規イベントを企画し集客を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・平成 29 年度までは、灯の回廊の雪茶屋会場として集客があったが、平成 30 年度は地元集落で人手が集まらず、雪茶屋会場の設営ができなかったことにより昨年よりも利用者数が減少した。
- ・施設は建設から 20 年近くが経過していることから、安全に利用できるよう、計画的な修繕を行うとともに、体験交流活動の拠点として、利用を促進するための PR を行う。

【執行残額について】

そ の 他 : 事業実施に伴う執行残 95

(単位：千円)

決算書 (P 282～P 283)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	道の駅よしかわ杜氏の郷管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,013	6,007			2,900	328 (財産収入、諸収入)	2,779
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	6				6	

【目的】

道の駅を訪れる観光客等の休憩場所を確保し、地域の特産品や観光情報を発信することにより、交流人口の拡大と地域の活性化を図る。

平成 30 年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成 30 年度目標

- ・利用者数：63,000 人

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地 吉川区杜氏の郷 1 番地
 設置 平成 12 年度
 施設内容 情報発信施設 (木造 218.14 m²)
 公衆トイレ (木造 69.71 m²)
 駐車場 265 台
 面積 延床 287.85 m² (情報発信施設 218.14 m²、公衆トイレ 69.71 m²)
 管理 直営
 利用形態 特産品販売等施設

○施設の管理実績

・利用者数

区分	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
			目標	実績
利用者数	62,884 人	61,778 人	63,000 人	64,881 人

決算書 (P 282～P 283)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	道の駅よしかわ杜氏の郷管理運営費		

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	12	11	12	0
	その他	109	249	83	328
	合計	121	260	95	328
②支出	施設維持管理費	5,396	5,764	5,676	6,007
	うち委託料	3,237	3,237	3,481	3,387
	その他	-	-	-	-
	合計	5,396	5,764	5,676	6,007
③公費投入額 (②-①)		5,275	5,504	5,581	5,679
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)		84	89	89	88

○目標達成状況

- ・利用者数は、目標に対して 1,881 人多い 64,881 人となり、目標を達成できた。

【事業の成果】

- ・農産物直売所では地域の農産物や特産品を中心に販売し、道の駅の集客に成果を上げている。
- ・公衆無線 LAN により無料で使用できる Wi-Fi 環境を提供するとともに、地域の観光ポスター・パンフレット等を配置し、観光客等へ情報提供することにより、交流人口の拡大に寄与している。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・頸北地区からの来場者が多いことから、ゆったりとした郷を始めとした近隣観光施設と相互連携してチラシ、パンフレットを配布し、市内全域に PR することで交流人口の拡大を図る。
- ・酒まつりやよしかわ新そばまつり等のイベントの認知度を上げるために積極的な情報発信や PR を行う。

【執行残額について】

そ の 他：事業実施に伴う執行残 6

(単位：千円)

決算書 (P282～P283)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	坊ヶ池周辺施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,151	3,946				631 (諸収入)	3,315
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	205					205

【目的】

休止施設を適切に維持管理するとともに、地元団体が地域の交流事業などで、施設を安全に使用できる状態を確保する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地	清里区青柳 3438 番地		
設置	山荘京ヶ岳 本館	平成2年度	
	山荘京ヶ岳 新館	平成6年度	
構造	フォークハウス湖畔	平成元年度	
	山荘京ヶ岳 本館	木造2階建て	
施設内容	山荘京ヶ岳 新館	木造2階建て(地下：鉄筋コンクリート造)	
	フォークハウス湖畔	鉄筋コンクリート造3階建て	
	山荘京ヶ岳 本館、新館	平成29年度から休止	
面積	フォークハウス湖畔	平成29年度から休止	
	坊ヶ池湖畔公園	炊事場・トイレ	
管理	延床 1,903.39 m ² (本館 499.44 m ² 、新館 1,036.05 m ² 、湖畔 367.9 m ²) 直営		
開設期間	坊ヶ池湖畔公園	4月下旬～10月31日	
利用形態	公園施設		

※平成29年度から「山荘京ヶ岳」、「フォークハウス湖畔」を休止しているが、地元団体から、イベントや地域の交流事業などでの施設使用希望があり、同年度から山荘京ヶ岳新館の一部(大広間・厨房)の使用を許可している。

決算書 (P282～P283)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	坊ヶ池周辺施設管理運営費		

○施設の管理実績

- ・施設管理における市の収支状況

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	7,850	-	-	-
	その他	28,481	617	625	631
	合計	36,331	617	625	631
②支出	施設維持管理費	49,144	5,633	4,151	3,946
	うち委託料	2,374	1,558	1,754	1,753
	その他	-	-	-	-
	合計	49,144	5,633	4,151	3,946
③公費投入額 (②-①)		12,813	5,016	3,526	3,315
④利用者1人当たりの 公費投入額 (単位:円)		463	-	-	-

○目標達成状況

- ・施設内設備等の維持管理を適切に実施したことにより、地元団体が休止後の施設を安全に活用できている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・今後も地元団体が施設を活用したいという意向であり、地域振興の面からも引き続き安全に使用できる状態を確保する。

【執行残額について】

そ の 他：当初見込みを下回ったことによる執行残 190
事業実施に伴う執行残 15

(単位：千円)

決算書 (P282～P283)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	三和米と酒の謎蔵管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
939	872					872
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	67				67	

【目的】

休止施設を適切に維持管理するとともに、三和味の謎蔵と一体的に、市の展示物・物品を収納する保管庫として活用する。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地 三和区大 867 番地 1
 設置 平成4年度
 構造 木造一部2階建て(地下1階)
 施設内容 中央棟、展示棟、展望台、その他附属施設 平成28年度から休止
 面積 延床 1,374.53 m²
 管理 直営
 利用形態 保管庫(倉庫)

・施設管理における市の収支状況

区分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予算	実績
①収入	使用料収入	-	-	-	-
	その他	-	-	-	-
	合計	-	-	-	-
②支出	施設維持管理費	2,310	983	939	872
	うち委託料	702	584	570	538
	その他	-	-	-	-
	合計	2,310	983	939	872
③公費投入額(②-①)		2,310	983	939	872
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		-	-	-	-

決算書 (P 282～P 283)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	三和米と酒の謎蔵管理運営費		

【事業の成果】

- ・市の展示物や物品を収納する保管庫として活用していくに当たり、施設の維持管理費を必要最低限に抑えている。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・施設の適切な維持管理を行っていく。

【執行残額について】

その他：事業実施に伴う執行残 67

(単位：千円)

決算書 (P284～P285)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	シーサイドパーク名立管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,942	8,900		450		3,341 (使用料、財産収入、 譲収入)	5,109
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	42				42	

【目的】

自然環境を生かした余暇活動の場、心身の健康の保持及び増進の場として、施設の適切な維持管理と情報発信を行うことにより、名立区への誘客を促進し、地域の活性化を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・利用者数：14,000人

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地 名立区名立小泊798番地1
 設置 平成5年度
 施設内容 ビッグボブスレー：全長470m ローラースライダー：全長190m
 アスレチック：木製15基 芝生広場：1,200㎡
 展望台：木造 地下1階・地上2階建て 延床299.42㎡
 パーベキューハウス：木造平屋建て 78.67㎡
 パーゴラデッキ付休憩棟：木造平屋建て 216.37㎡
 管理棟：木造平屋建て 132.2㎡ 等
 面積 約35ha
 営業期間 4月下旬～10月31日の土曜・日曜・休日（夏休みは火曜日を除く毎日）
 管理 直営
 利用形態 公園施設

決算書 (P284～P285)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	シーサイドパーク名立管理運営費		

○施設の管理実績

・利用者数等

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			予算	実績
利用者数	12,994人	13,443人	14,000人	11,695人

・施設管理における市の収支状況

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	3,780	3,845	3,827	3,258
	その他	-	55	450	533
	合計	3,780	3,900	4,277	3,791
②支出	施設維持管理費	9,386	8,439	10,000	8,900
	うち委託料	711	712	712	620
	その他	-	-	-	-
	合計	9,386	8,439	10,000	8,900
③公費投入額(②-①)	5,606	4,539	5,723	5,109	
④利用者1人当たりの 公費投入額(単位:円)	431	338	409	437	

○目標達成状況

- ・利用者数は目標に対して2,305人少ない11,695人であり、目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・予定した修繕を迅速に実施するなど、適切な維持管理を行った結果、事故の発生は無く、安全な利用環境を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・5月、9月の天候不順や8月の猛暑による外出控えなどの影響により、結果として前年度を大幅に下回る入込となった。
- ・集客力のある道の駅うみてらす名立でのPRやホームページ等への掲載を強化し、施設周知と利用促進を図る。
- ・風害や塩害により施設や設備の老朽化が進行しているため、引き続き適切な点検と計画的な修繕を行っていく。

【執行残額について】

その他：事業実施に伴う執行残 42

(単位：千円)

決算書 (P284～P285)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	光ヶ原高原観光総合施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
9,099	9,080			4,800	409 (使用料、財産収入、 諸収入)	3,871
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	19				19	

【目的】

自然環境を生かした余暇活動の場を提供し、光ヶ原高原、関田山脈の魅力を伝える拠点施設としての利用を促進し、地域の活性化を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・利用者数：23,000人

○実施内容、これまでの経過等

・施設の概要

所在地 板倉区関田 4046 番地 2

設置 昭和 63 年度

構造 グリーンパル光原荘：木造一部鉄骨造 2 階建て

光ヶ原高原センター：鉄筋コンクリート造 2 階建て

施設内容 グリーンパル光原荘：客室 7 室、休憩室 2 室、シャワールーム

キャンプ場：バンガロー（木造 4 棟）、テントサイト（10 箇所）、

野外トイレ（1 棟）、炊事場（1 箇所）ほか

光ヶ原高原センター：トイレ、休憩スペース

面積 29.77ha

管理 直営

利用形態 グリーンパル光原荘：日帰り及び宿泊施設、光ヶ原高原センター：休憩施設

※平成27年度から「光ヶ原高原センター」を休止してきたが、地元団体から、イベントや来訪者への対応として一部開放の強い要望を受け、平成29年度からトイレ及び休憩スペースとして一部開放している。

決算書 (P284～P285)	7款1項3目 観光費	所管課等	施設経営管理室 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	光ヶ原高原観光総合施設管理運営費		

○施設の管理実績

・利用者数

区 分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	
			目 標	実 績
利用者数	21,888人	22,814人	23,000人	15,647人

・施設管理における市の収支状況

区 分		平成28年度	平成29年度	平成30年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	368	385	430	281
	その他	113	113	126	128
	合計	481	498	556	409
②支出	施設維持管理費	7,510	10,372	9,099	9,080
	うち委託料	5,253	6,367	5,865	5,864
	その他	-	-	-	-
	合計	7,510	10,372	9,099	9,080
③公費投入額(②-①)		7,029	9,874	8,543	8,671
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)		321	433	371	554

○目標達成状況

- ・利用者数は目標に対して7,353人少ない15,647人となり、目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・信越トレイルのビジターセンターに指定されているグリーンパル光原荘や周辺のテントサイトは、トレイルへのアクセス性に優れ、多くのハイカーの宿泊や休憩に利用されており、交流人口の拡大に一定の成果を上げている。
- ・信越トレイルの拠点施設及び県境施設として、市内及び近隣の観光情報等を提供するとともに、景観に配慮し、環境美化に努めた。
- ・平成29年10月の台風21号による県道上越飯山線道路災害復旧工事に伴う交通規制により施設開設が例年より約2か月遅延したため、利用者数の実績は目標より大幅に下回った。一方で、光ヶ原高原センターのトイレと休憩スペースの利用者数は3,683人となり、前年の約2倍となった。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・施設は、建設から30年以上経過していることや、冬期間の厳しい環境条件による構造部の劣化が確認できることから、引き続き計画的な修繕を進め、安全な利用環境を確保する。
- ・信越トレイルのビジターセンターとして、利用者のニーズに促した施設運営を進めていく。

【執行残額について】

そ の 他：事業実施に伴う執行残 19

(単位：千円)

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
66,095	62,164	1,900			50 (諸収入)	60,214
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,931	468	2,000	21	1,442	

【目的】

「選ばれる観光地域づくり」の実現に向けて、当市の持つ豊かな食や自然、歴史、文化などの観光資源を生かした交流人口の拡大を図るための取組を行う。また、平成30年度中の新水族博物館「うみがたり」や歴史博物館のオープンに備え、観光客の市内周遊を促進するための取組を進める。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

佐渡広域観光誘客事業 1,336

○平成30年度目標

- ・連携事業による送客人数 1,500人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 佐渡市・上越市観光・航路連携協議会への負担金 (1,280)

- ・小木直江津航路の活性化や両市の観光振興を推進するため、PRイベントへの参加や両市市民の相互送客ツアー造成等を実施した。
- ・JR WEST PASS及びJR EAST PASSなどを所持する外国人旅行者向けに上越妙高駅から直江津駅までのバス、小木直江津航路のフェリー、佐渡島内バス、えちごトキめき鉄道をセットにしたお得なパス「SADO-JOETSU Pass」を造成した。

(2) 佐渡金銀山世界遺産登録に向けた交流宣言署名式 (56)

- ・佐渡市、新潟市、長岡市、上越市の4市が、佐渡金銀山の世界遺産登録の早期実現に向けた取組を協働で行い、各地域への交流人口の拡大につなげるため、7月12日(木)に交流宣言署名式を実施した。

○目標達成状況

- ・連携事業による送客人数の目標については、佐渡市民観桜会ツアー及び補助金を活用した県外ツアー客を見込んで設定したが、観桜会ツアーが中止になったこと及び補助金を活用したツアーが催行されなかったことから、送客人数の実績は70人とどまった。

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

J R観光ティアアップ商品造成・宣伝事業 5,607

○平成30年度目標

- ・北陸新幹線の開業により利便性が高まった首都圏を始め、移動時間が大幅に短縮された近隣県、北陸圏及び関西圏の主要駅で当市の主要なイベントの情報を発信することで、当市の知名度・認知度の向上及び当市への誘客拡大を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- ・J R東日本とティアアップして、集客効果の高いイベントである「高田城百万人観桜会」、「上越蓮まつり」、「謙信公祭」、「越後・謙信SAKEまつり」及び「灯の回廊」について、首都圏及び新潟、長野、高崎各支社管内、さらに北陸圏や関西圏の駅構内にポスターの掲出を行った。

○目標達成状況

- ・首都圏や北陸圏及び関西圏のJ R主要駅で、集客効果の高いイベントのポスターを季節に応じて掲出することにより、継続的に当市の知名度・認知度向上を図った。

観光営業事業 2,043

○平成30年度目標

- ・市内外で開催されるイベントや商談会などの機会を通じて、集客イベントへの誘客に向けたPRを継続するとともに、時期に応じた市内の見どころや体験プログラムに関する情報発信を強化する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・公益社団法人上越観光コンベンション協会など関係団体と連携、役割分担をしながら当市への誘客促進に向け取り組んだ。

(1) 首都圏・関西圏での営業活動及び姉妹都市・広域観光連携都市等での観光PR (678)

- ・旅行会社や観光関係メディアを対象とした観光商談会、情報交換会等に参加し、新水族博物館「うみがたり」を始め、市内の観光資源や「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」に向けて作成した広域的なモデルコースを紹介しながら、市内施設等への立ち寄りを含む旅行商品の造成・催行を働き掛けたほか、NEXCO東日本と連携した高速道路SAでの観光PRを実施した。
- ・姉妹都市、集客プロモーションパートナー都市など交流都市で開催された集客イベント等に参加し、来場者に当市への来訪を呼び掛けた。

(2) 高田城百万人観桜会における観光PR活動等 (182)

- ・J R東日本が運行する臨時列車「高田お花見号」や、しなの鉄道が運行する「ろくもん」の利用客などへ観光PRを行ったほか、観桜会会場において広域観光連携を図る自治体等のPRブースを設置した。

(3) 上越妙高駅新幹線改札前PRスペースでの情報発信 (179)

- ・J R東日本が情報発信拠点として整備したスペースを活用し、駅利用者に対して当市イベント等の開催に合わせてPRを行った。

決算書 (P 284～P 287)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

○目標達成状況

- ・継続的に首都圏及び関西圏で開催される商談会等へ参加し旅行会社への営業を行うとともに、各種イベントにおいて観光PRを実施した。
- ・「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」の取組とも連携しながら、市内まち歩きなどのモデルコースを提案することで、市内の見どころや体験プログラムに関する情報発信を強化した。

各種団体等との連携事業 5,696

○平成 30 年度目標

- ・北陸新幹線開業で利便性が高まった首都圏及び関西圏からの誘客を始め、外国人旅行者から当市を訪れていただけるよう、今まで以上に関係団体と連携しながら誘客の促進を図る。
- ・また、平成 31 年秋の「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」開催に向け、観光素材を生かした着地型観光の充実に取り組む。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 各団体負担金 (5,617)

- ・ほくほく線沿線地域振興連絡協議会 (1,362)
情報誌やフェイスブックによるイベントの情報発信や観光スポットの周知、「うまさぎっしり新潟」新潟県観光商談会への参加等により当市及び沿線地域の魅力を発信した。また、鉄道会社が実施するスタンプラリーへの共催や沿線地域のイベントへの助成を通じて、地域の交流人口の拡大を図った。
- ・公益社団法人 新潟県観光協会 (1,802)
観光情報の発信、誘客宣伝活動等を行い、地域経済の持続的な発展と活力に満ちた地域社会づくりの実現に寄与した。
- ・新潟県国際観光テーマ地区推進協議会 (150)
インバウンドの誘客拡大のため、東アジア、東南アジア等市場における現地セールスや旅行会社招へい等による旅行商品造成の働き掛けを行った。
- ・にいがたスキー100年委員会 (169)
スキーに係る基礎情報の整備、各種メディアを活用した効率的かつ効果的な情報収集と情報発信を行った。
- ・上信越ふるさと街道協議会 (10)
長野県・群馬県・新潟県にまたがる各街道沿線の関係団体と連携した情報発信等を行った。
- ・北陸新幹線停車駅都市観光推進会議 (400)
インバウンドの受入事業として、台湾向けのフェイスブックサイトを立ち上げ、情報を発信することで誘客促進を図った。
- ・日本さくらの会 (10)
国花である「桜」の愛護、保存、普及活動等の取組を行った。
- ・「うまさぎっしり新潟」観光推進協議会 (984)
県内の観光コンテンツを紹介したキャンペーンガイドブックを作成し、JR 東日本主要駅、高速道路 SA/PA 等へ配布した。また、県観光協会との連携により首都圏及び関西圏で開催された観光商談会に参加し、「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」に向けた「妙高・上越エリア」のモデルコースをPRしたほか、県観光協会ホームページ「にいがた観光ナビ」への掲載等を通じて、当市の観光情報を発信した。

決算書 (P 284～P 287)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

- ・北アルプス日本海広域観光連携会議 (630)
サイクリングをテーマとした誘客に向け、台湾メディア及び旅行会社の視察の受入れや台湾旅行会社への営業活動などの訪日プロモーション地方連携事業を実施し、当市並びに当エリアの認知度向上と誘客促進を図った。
- ・関東観光広域連携事業推進協議会 (100)
2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を視野に入れ、関東（新潟県、長野県、福島県を含む）における外国人旅行者の受入環境整備の推進及び関東の国際的な観光認知度の向上を図った。

(2) 団体会議等への出張旅費等 (79)

○目標達成状況

- ・各団体の事業を通じて、誘客に資する情報収集等を行うとともに、関係団体と連携して当市の情報発信を行い、認知度向上と誘客促進を図った。
- ・令和元年秋の「新潟県・庄内エリアデスティネーションキャンペーン」に向け、上越地域の観光素材を生かしたモデルコースを作成し、営業活動等で発信を行った。

観光宣伝物作成事業 6,953

○平成 30 年度目標

- ・新水族博物館「うみがたり」や歴史博物館など新たにオープンする施設を始めとした観光資源の情報を、時宜を捉えて効果的に発信する。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 各種パンフレット等の作成 (5,773)
 - ・総合パンフレット[増刷] 70,000 部 (4,196)
 - ・春日山城跡めぐり[増刷] 60,000 部 (1,069)
 - ・港町直江津さんぽ[増刷] 20,000 部 (508)
- (2) 画像編集ソフトの購入 (43)
 - ・観光宣伝に必要な素材の編集に使用するためのソフトウェアの年間使用権を購入した。
- (3) 観光宣伝用ポスター等の作製 (397)
 - ・駅利用者へのイベント情報の発信及び旅行の動機付けを図るため、J R 首都圏主要駅の掲載枠を活用し、高田城百万人観桜会のポスターの掲出を行った。
 - ・当市と姉妹都市である長野県上田市との共通の観光素材である「桜」をテーマとした P R ポスターを作製し、両市内で掲出を行った。
- (4) 観光素材撮影用カメラの購入 (740)
 - ・「上越観光 N a v i (ナビ)」等を通じ、当市ならではの観光資源を美しい写真等で発信するため、撮影用のカメラ及び交換レンズを購入した。

○目標達成状況

- ・うみがたりや歴史博物館のオープンに合わせて印刷物を更新し、時宜を捉えて当市の多様な魅力を発信した。
- ・観光 P R のために出展したイベントにおいて、参加者にパンフレット等を配布しながら、当市への誘客を図った。
- ・当市ならではの観光資源を美しい写真に収め、ポスター等に活用することによってより訴求力のある観光 P R に努めた。

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

上越地域連携事業 1,400

○平成30年度目標

- ・上越地域の自治体や関係団体と連携した情報発信や共同事業の実施により、当市への観光誘客を図る。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 広域観光パンフレット作成委託料 (1,000)
 - ・上越・妙高広域観光パンフレット「上越・妙高」の作成委託
- (2) 新潟観光ブランド確立支援事業負担金 (200)
 - ・上越地域の観光誘客の拡大等を図るため、上越・糸魚川・妙高広域観光ブランド推進検討会を発足し、上越・糸魚川・妙高広域観光ブランド推進セミナーを開催した。
- (3) 久比岐自転車道魅力アップ実行委員会負担金 (200)
 - ・久比岐自転車道キャンペーンの実施、PRキャラクターのLINEスタンプ作成、サイクルステーション案内表示及び久比岐自転車道ガイドマップの製作、誘導標示の設置等を行った。

○目標達成状況

- ・近隣自治体や県、観光協会と連携し、上越地域の様々な魅力の発信に向けた情報共有や機運醸成を行うとともに、イベントの開催等を通して、観光誘客の促進及び認知度の向上に寄与することができた。

無料招待券配布事業 1,118

○平成30年度目標

- ・配布対象都市での本招待券の認知度を高め、当市への来訪を促進する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・夏休み期間中に利用できる当市施設の無料招待券を贈呈した。
- ・贈呈先：新潟県佐渡市・十日町市、長野県長野市・上田市・東御市・飯山市、群馬県藤岡市・高崎市の幼稚・保育園児、小学生全員
- ・対象施設：上越科学館、リージョンプラザ上越プール、鶉の浜人魚館プール・温泉、うみてらす名立プール、ゆきだるま温泉雪の湯、上越清里星のふるさと館、シーサイドパーク名立、交通公園ゴーカート、高田城三重櫓、日本スキー発祥記念館、尾神岳スーパースライダー、上越市立歴史博物館、金谷山スーパーボブスレー
 - ※平成30年度は対象施設に上越市立歴史博物館と金谷山スーパーボブスレーを追加。
- ・実績：対象者数 95,498人、利用人数 1,148人、利用率 1.2%
 施設入館者数 2,976人 (大人 1,828人、子ども 1,148人)
 各施設入館料総計 122万円、同伴者による入館料効果 77万円

○目標達成状況

- ・対象施設を増やし当市への来訪を促したものの、水族博物館を対象施設外とした平成29年度に引き続き、施設入館者数が減少した (H29：施設入館者数 3,593人)。

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

信越トレイル利用促進事業 642

○平成30年度目標

- ・信越トレイルの利用者数:6,000人(市内の測定可能な箇所での利用者数の目標値)

○実施内容、これまでの経過等

- ・信越トレイルコースと市内観光施設への利用者増加につなげるため、PRパンフレットの作成を行った。

○目標達成状況

- ・利用者数は、6,001人となり、目標を達成することができた。

謙信公ゆかりの地振興事業 4,574

○平成30年度目標

- ・上越市埋蔵文化財センターで開催する企画展の入込数:38,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・謙信公ゆかりの地振興事業交付金

官民一体となって組織された「謙信公の郷振興協議会」に交付金を交付し、各種事業を実施することにより、郷土の英雄・上杉謙信公と春日山城を中心とする上越市の魅力を市内外に発信し、誘客促進を図った。

<謙信公の郷振興協議会の主な事業>

- ・企画展「越後上越 謙信公と春日山城展」の開催
会期:平成30年4月1日(日)～平成31年3月31日(日)
会場:上越市埋蔵文化財センター
入場者数:27,800人
内容:謙信公と春日山城を中心に戦国時代の越後上越の様子を映像やジオラマで紹介したほか、謙信公祭での川中島合戦の再現をVRで体験できるコーナーを設置した。
- ・「戦国ご当地グルメ大合戦～グルメ合戦天下統一～」の開催
開催日:8月25日(土)、26日(日)
会場:上越市役所春日野駐車場
内容:各地のご当地グルメを一堂に集め、グルメの購入ごとに配布されるコインにより投票を行った。(市内7店、県内5店、県外20店 合計32店出店)
- ・無料シャトルバスの運行
観桜会期間中の桜の最盛期に来訪者を観桜会会場から春日山城跡周辺及び上越市埋蔵文化財センターへ誘客するため、無料シャトルバスを運行した。
運行日:4月7日(土)、8日(日)、14日(土)、15日(日)、21日(土)、22日(日)
乗車人数:454人
- ・「上杉謙信公ゆかりの地をめぐるリレー講演会」の開催
謙信公の遺徳を広く市民に伝えるため、謙信公や史跡に関する講義と、謙信公ゆかりの地での現地解説を組み合わせたリレー講演会を開催した。(全1回・49人参加)
- ・「上杉謙信公学習会」の開催
子どもたちの謙信公に対する関心を高めることで、「謙信公のふるさと・上越市」への誇りと愛着を育むため、小中学生を対象とした謙信公ゆかりの史跡を訪ねる学習会を開催した。(全2回・合計42人参加)

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

・宣伝広告等

企画展等を市内外に広くPRするため、雑誌・フリーペーパーを始めとする各種媒体へ広告を掲載したほか、「越後上越 上杉おもてなし武将隊」による宣伝活動を行った。また、上越IC、上越高田ICから春日山城跡や上越市埋蔵文化財センターへの案内看板を設置した。

○目標達成状況

- ・7月、8月の平均気温が前年に比べて高かったこともあり夏季の入込数が減少し、企画展「越後上越 謙信公と春日山城展」の入込数は目標を達成することができなかった。

「越後上越 上杉おもてなし武将隊」事業 23,081

○平成30年度目標

- ・春日山城跡入込数：260,000人

○実施内容、これまでの経過等

(1) 観光客受入体制充実事業委託料 (22,840)

- ・春日山城跡や上越市埋蔵文化財センター等で、観光ガイドや写真撮影、VR体験の実施などのもてなし活動を行った。
- ・市内外での観光PRやイベント出演などにより、「上杉謙信公のふるさと上越市」を全国に発信し、当市の認知度向上や誘客促進を図った。

(2) 事業用車両点検整備等 (241)

○目標達成状況

- ・春日山城跡への入込数は232,800人であり、目標の260,000人を達成することはできなかった。

灯の回廊事業 3,800

○平成30年度目標

- ・各区のイベントの一体的な情報発信を行い、来訪者の少ない冬季の誘客促進につなげるとともに、住民が主体となって取組が広がり、市内各地区へつながるよう働き掛ける。
- ・目標入込数：31,000人

○実施内容、これまでの経過等

- ・開催日 平成31年2月23日(土)
- ・会場 安塚区、大島区、浦川原区、牧区、高士区(岩の原葡萄園周辺)、名立区(不動産)
- ・主催 安塚キャンドルロード実行委員会、大島雪ほたるロード実行委員会、うらがわら雪あかりフェスタ実行委員会、牧まちづくり実行委員会、高士地区雪まつり実行委員会、不動森あげ米かい、上越市
- ・事業内容 上越市の冬の一大イベントとして、安塚区、大島区、浦川原区、牧区、高士区及び名立区の雪灯りイベントをつなぎ合わせた一体的なPRを行った。

・経費の内訳

- 消耗品(ろうそく、紙コップ等購入) (2,610)
- ポスター・パンフレット作成 (799)
- パンフレット市内全戸配布運搬料等 (159)
- バス運行業務委託 (232)

決算書 (P284～P287)	7 款 1 項 3 目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成 30 年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

・入込数の推移

	平成28年度	平成29年度	平成30年度
入込数(人)	30,230	23,780	28,430

○目標達成状況

- ・当日は天候に恵まれ、各会場へのアクセスの状況も良かったことから入込数は平成 29 年度を上回ったものの、目標を達成することができなかった。
- ・例年に比べて気温の高い日が多く、まとまった雪が降らなかったことから、沿道の雪壁が途切れる区間もあったが、キャンドルを入れたペットボトルを設置したり、バケツに詰めた雪で作った灯籠を並べたりするなど、小雪の中でも各地域で工夫しイベントのPRを行うことができた。

観光インフォメーション利用環境整備事業 1,369

○平成 30 年度目標

- ・四季の見どころや体験プログラムなどについて魅力的な画像・映像を多く用いながら紹介するとともに、サイトの利便性や操作性の向上に向けた技術的な改修を随時行う。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 筆耕翻訳料 (28)

- ・上越観光N a v i に掲載する主な年間イベントの説明の変更に伴い、人による英語翻訳を行った。

(2) 観光インフォメーションウェブサイト保守管理委託料 (1,341)

- ・新水族博物館「うみがたり」周辺の立ち寄りスポットや、日本遺産「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間～北前船寄港地・船主集落～」の構成団体に追加認定された当市の北前船寄港地に関連する文化財等を紹介する特設ページを新たに作成した。
- ・また、「上越の朝市」の特設ページでは、出店者や主な販売品を紹介する画像を加えるなど、朝市を身近に感じられる情報を充実させた。

○目標達成状況

- ・新たに公開した特設ページにより、当市ならではの歴史、風土、物語を生かした周遊観光の新たな魅力をPRした。
- ・平成 30 年度に購入した高性能カメラで撮影した画像を上越観光N a v i 内で活用・掲載し、当サイトの情報の充実と効果的な発信に努めた。

インバウンド推進事業 3,269

○平成 30 年度目標

- ・市内の観光事業者がインバウンドの推進に取り組むことを促すとともに、当市の観光資源を広く発信し、外国人旅行者の誘客を図る。

○実施内容、これまでの経過等

(1) 誘客促進・調査業務委託料 (648)

- ・外国人旅行者の誘客に向け、市内在住の外国人の方々から、当市のイベントや自然、食、歴史、文化などの観光資源を巡り、体験いただいた上で、その魅力をSNSで発信し、効果を検証した。

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

(2) 上越市インバウンド推進事業補助金 (900)

- ・市内の観光事業者（宿泊、飲食、交通、物販等）が誘客のために取り組む活動に要する経費の一部を補助した。

(3) クレジットカード利用端末機導入費等補助金 (1,598)

- ・市内の民間事業者が行うクレジットカードの利用端末機導入に係る経費の一部を補助した。
- ・上越商工会議所のクレジットカード包括契約事業で利用しているシステムを、訪日旅行者が多い中国本土で普及している銀聯（ぎんれい）カードに対応できるように改修する事業費を補助した。

(4) 報償費ほか (123)

- ・冬期間に妙高市を訪れる外国人スキー客を当市へ誘客するため、高田地区及び直江津地区の英語版手作りマップを修正・増刷し、市内宿泊施設、飲食店等や妙高市内宿泊施設に配布した。
- ・インバウンド推進に向け、免税店制度とクレジットカードについて市内の事業者から理解を深めてもらうための研修会を開催した。

○目標達成状況

- ・市内在住の外国人の方々から当市の魅力をSNSで発信してもらうことにより、外国人旅行者への誘客促進に努めるとともに、今後のインバウンド推進に資する情報が得られた。
- ・上越市インバウンド推進事業補助金により、観光事業者の海外での営業、ホームページやメニュー表等の多言語化に係る経費を支援することで、民間主導によるインバウンド推進を促すことができた。

観光地域づくりモデル事業 1,276

○平成30年度目標

- ・観光地域づくりに通じる活動を約20年にわたり実践している「越後田舎体験」事業を基に、大人の旅行者や外国人旅行者の誘客促進を図るための基礎をつくる。

○実施内容、これまでの経過等

- ・当市の地域資源を生かした観光地域づくりを目指す取組として、モニターとして写真家などを招き、中山間地域でのソバ打ち体験を始め、高田公園や春日山城跡など市内の主要な観光資源を巡るモニターツアーを11月と2月に実施した。
- ・モニターからは、「市内にはたくさんの魅力がある」「関係者との交流を通じて、施設やまちの魅力が高まった」などの意見があり、その評価や取組の方向性を広報上越で紹介した。

○目標達成状況

- ・当市ならではの観光地域づくりに向けて実施したモニターツアーにおいて、地域の皆さんが自らの思いを込めて施設やまちの魅力を伝えることで旅の付加価値が高まるなどの効果を確認することができた。

【事業の成果】

- ・広域観光連携の取組として、佐渡市・上越市観光・航路連携協議会では、訪日外国人旅行者向けに「SADO-JOETSU Pass」を造成したほか、近隣自治体との取組では「新潟県・庄内エリアデスクティーンキャンペーン」に向けた広域の周遊モデルコースを作成しPRするなど、広域連携による新たな取組を推進することができた。

決算書 (P284～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	観光企画費		

- ・継続的に首都圏及び関西圏で開催される商談会や情報交換会へ参加することにより、旅行会社における上越地域の知名度が上がり、新たな旅行商品の造成に結び付いてきている。特に新水族博物館「うみがたり」を含む広域の周遊モデルコースを提案したことで、旅行会社の上越地域への興味を高められた。
- ・市内在住の外国人の方々から当市の魅力をSNSで発信してもらうことにより、外国人の方が関心を抱くものの傾向を把握することができた。
- ・観光地域づくりモデル事業の実施により、事業者や市民が自ら「ふるさとの語り部」として来訪者と語り、もてなしたりするなど、「観光の担い手」「プレイヤー」として主体的に参画することの意義を確認し、広報上越等を通じて共有を図った。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・関西圏の旅行会社では多くの団体旅行を催行しているが、首都圏の旅行会社では団体旅行の取り扱いが減り、個人旅行の取り扱が増えている。このため、個人向けの旅行会社へのアプローチ及び直接個人へ情報が届くような仕掛けを検討していく必要がある。
- ・平成30年度に造成した「SADO-JOETSU Pass」の利用促進を図るとともに、インバウンド推進事業補助金の有効活用などを通じて、今後も増加が見込まれる外国人旅行者の誘客並びに受入環境の整備を進めていく必要がある。
- ・引き続き、観光関連事業者、団体、市民など、より多くの関係者と観光振興の方向性を共有し、連携を密にして、それぞれの取組効果を高めていく必要がある。

【執行残額について】

事業費節減：佐渡広域観光誘客事業に係る旅費の節減	31
観光営業事業等に係る旅費、運搬料、手数料の節減	403
各種団体等との連携事業に係る旅費の節減	34
事業未実施：インバウンド推進事業に係るクレジットカード移動型利用端末機導入費等補助金の未実施による執行残	2,000
入札差額：観光営業事業に係る委託料入札差額	21
その他：佐渡広域観光誘客事業に係る負担金の執行残	170
観光営業事業等に係る報償費の執行残	103
信越トレイル利用促進事業に係る消耗品の執行残	78
謙信公ゆかりの地振興事業に係る報償費の執行残	80
謙信公ゆかりの地振興事業交付金の執行残	155
「越後上越 上杉おもてなし武将隊」事業に係る手数料の執行残	22
灯の回廊事業に係る印刷製本費の執行残	280
観光インフォメーション利用環境整備事業に係る筆耕翻訳料執行残	17
インバウンド推進事業に係る報償費、筆耕翻訳料の執行残	61
インバウンド推進事業に係るインバウンド推進事業補助金の執行残	100
観光地域づくりモデル事業の委託内容見直しによる執行残	290
その他事業実施に伴う執行残	86

(単位：千円)

決算書 (P286～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	越後田舎体験推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,201	3,820					3,820
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	381				381	

【目的】

当市が有する海・山・大地の豊かな自然、農山漁村の地域資源とそこに生きる人々の暮らしを生かした体験型観光を推進し、交流人口と地域の活性化を図る。

平成30年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○平成30年度目標

- ・新たな体験メニューの開発など体験内容の充実を図り、受入家庭及びインストラクターを確保し、受入団体数40、受入人数4,000人、8,000泊を目標とする。

○実施内容、これまでの経過等

- (1) 受入体制の維持・強化に係る取組 (302)
 - ・民泊家庭、受入地域開拓のための周知・勧誘活動を実施した。
- (2) 各種営業活動、研修会等への参加 (632)
 - ・首都圏、関西圏域の旅行代理店や学校等を訪問する営業活動を実施した。
- (3) 越後田舎体験推進協議会負担金等 (2,411)
 - ・越後田舎体験の推進を目的に官民で組織している協議会への負担金
負担金：上越市2,311(47%) 十日町市2,606(53%)
 - ※市内の受入地域は、安塚区、浦川原区、大島区、牧区、柿崎区、大潟区、吉川区、板倉区、清里区、三和区、名立区の11地区である。
- (4) 越後田舎体験事業での受入れ等に係る消耗品購入ほか (475)

○目標達成状況

- ・受入数は、43団体、3,959人、8,081泊となり、団体数及び宿泊数は目標を達成することができた。

越後田舎体験受入数の推移

区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度
団体数(団体)	41	43	43
人数(人)	3,722	3,452	3,959
宿泊数(泊) ※延べ宿泊数	8,402	7,657	8,081

決算書 (P286～P287)	7款1項3目 観光費	所管課等	観光交流推進課 (平成30年度所管は観光振興課)
事業名	越後田舎体験推進事業		

【事業の成果】

- ・受入人数は目標達成には至らなかったものの、売上げは、宿泊施設、インストラクター及び民泊受入家庭である市民の収入となっており、地域経済に寄与した。
- ・国内の学校に加え、10月には韓国、11月には中国からそれぞれ学生を受け入れた。
- ・新たに企業の人事担当者向けに営業活動を行った結果、モニターツアーの実施につながった。
- ・農山漁村振興交付金を活用し、地域の観光素材を再確認する会議や県外他地区の受入視察、ホームページの更新、受入れのためのポイント研修を行い、受入体制を強化した。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・全国的に農山漁業体験の受入れを行う地域・組織が増え、競争が激しくなっており、今後は、外国人観光客を取り扱う旅行会社にも営業活動を行い、取組を拡大していく。
- ・民泊受入家庭の高齢化が進み、民泊受入家庭の数も減少しているため、広報紙への掲載や、チラシの配布、希望者への説明会など新規受入家庭の増加を図るとともに、既存の受入家庭を対象にした研修会などを引き続き行っていく。
- ・新規団体の開拓に向け、民泊受入家庭等との意見交換を行いながら、上越市ならではの体験プログラムの充実を図るほか、地域の魅力を発信していく必要がある。

【執行残額について】

その他：受入体制の維持・強化に係る取組や民泊家庭、受入地域開拓のための周知・勧誘活動、研修等に係る報償金、旅費等が見込みを下回ったための執行残 381